

平成 22～23 年度「OB と語る会」講師リスト

日 時：平成 22 年 12 月 3 日（金）
対 象：先端物質化学 修士 1 年生

講師氏名	卒業年	勤務先
松本 正和 氏	応化 S45 年卒	元：キヤノン(株) 勤務
政木 秀夫 氏	物質工学科 H1 年卒	DIC(株)(旧：大日本インキ化学工業)

日 時：平成 23 年 7 月 26 日（火）
対 象：化学コース 3 年生

講師氏名	卒業年	勤務先
山口 公弘 氏	物質工学科 H19 年卒	DIC(株)(旧：大日本インキ化学工業)
唐石 俊之 氏	電化 S53 年修士卒	東芝テック(株)

「OB と語る会」に参加して

政木 秀夫（平成元年物質工学科材料化学大講座 栗田雄喜生研究室卒業）

同期の禅先生に参加を依頼され、一度家族旅行にぶつかって断っていたこともあり、今回は引き受けさせていただきました。禅先生とは定期的にプチ同窓会（物質工学科同期生同士、全員で9名、年3回の会）でよく話していることもあって、“政木に依頼”するという意味を私なりに考えまして、かなりくだけた内容に終始しました。

まずここでは2010年12月3日を振り返りたいと思います。

45歳になった今でも横浜国大のバレーボール部のOB連中を中心に活動している横浜国大クラブ“シニア”で定期的に参加していることもあって、横浜国大には車で訪問することはあったのですが、“和田町から徒歩で通学”したのは卒業以来、本当に道中、涙が出そうになりました。（ちょっと大袈裟かな？）

構内には体育館側（→編注：現在の南通用門）から入り、1食、中央通（正式名称を忘れました→編注：メインストリート）を歩いて行って、物質工学科化学棟に入りました。私の在学当時から、ちょっ

と派手→普通→地味、な空気の流れは相も変わらずで、更に懐かしさが込み上げてきました。

禅先生の6Fの教員室を訪ねた後、私の在学当時にはなかった7Fの講義室（→編注：7Fゼミ室は存在したが廊下の反対側にある今回懇親会を行ったリフレッシュルーム（元会議室）は当時なかった）で修士1年の皆さんの前で話すことになったのですが、キヤノンOBの松本さんという大先輩の講義の後という形で、前半は聴講しながら（控えめに）学生の皆さんを観察していました。初めの感想は（女子が多いな～）でして、20名ぐらいの中で6から8名ぐらいいたのではないのでしょうか。（すいません、かなり曖昧ですが…）

さて、私の番となり、かなり緊張しながら学生の皆さんの前で話しをしたのですが、A4で2枚の資料とともに話は私の生い立ちやら失敗談やら、ついでに成功談やらで、学生の皆さんもかなり拍子抜けしたのでは。それでも私の無粋な熱意は伝わったのでしょうか、寝ている学生さんはほとんどいなかったと思います。（それでも一人はいたな～。）

時間配分がうまくいかず、慌てて話を終わりにし

て、その後の禅先生をはじめとする主催者の方々のご好意で開催していただいた懇親会に突入しました。流石に“大盛り上がり”っていう雰囲気ではありませんが、個々に学生の皆さんと話をすることができました。私が栗田雄喜生研究室卒業で横山泰先生につかせていただいたこともあって横山研究室の学生2名が話しかけてくれまして、徐々に他の学生の皆さんとも打ち解けていく感じ。ほんのりとした楽しい時間を過ごさせていただきました。（懇親会後には横山研究室の歴代OBの実験ノートをひっくり返し、私のノートも20余年ぶりに回顧できました。これは和田町からの通学以上に涙もの…。横山研究室の皆さん、本当にありがとうございました。）

この事後報告書もひたすら他愛もない話で終始しましたが、実は私自身が本当に貴重な一日を過ごさせていただいたと感謝している次第なのです。日々の仕事に追われ、この件を依頼されたときは正直（ちょっと勘弁してほしいな～、でもあそこまで熱心に頼まれたら断れないよな～）っていう気持ちもあったのですが、ノスタルジックなひと時を過ごすことができたとともに、自分自身を見直す良い機会でした。（一回目に家族旅行とバッティングして断らざるを得なかったというのは真実です。）

本当に「この会の主旨わかってる？ 学生たちに何を伝えたいの！？」って怒られてしまいそうなので、学生の皆さんに配布した資料の抜粋を再度引用させていただき、最後に私の思いの丈を述べたいと思います。

……ここでいう能力というのは、お受験関係者が「能力」と勘違いしているような「テストでいい点を取り、いい学校に入るスキル」ではなく、普通に生きて十分に稼いで楽しく家族と暮らしながら人とコミュニケーションし力づけ、社会にも貢献していく力、つまり「生きる力」のことです。

……真のリーダーというものは、赤絨毯をしいた廊下を手を引いて歩かせながら育てるものではない。草莽（そうもう）の中から、旧来の基準で言えば学歴もない、職歴もない、だが人を引っ張る力と

魅力と清潔さのあるリーダーが必ず出てくると思いますよ。

いや、本当のリーダーはさほどの問題ではありません。日本というのは常に、現場で汗をかいている普通の人たちが支え、何度でもよみがえらせてきた社会です。その現場力、雑草力を私は期待します。（藻谷浩介氏著：デフレの正体—経済は「人口の波」で動く、より）

この引用させていただいた本は、最近私が（日本でひいては世界で何が起きてるんだろう？）と自分なりに思い、色々な本を読みあさっている中でめぐり合ったものでありまして、かなり真実を突いているものだと感銘したものです。私の最も言いたいことも上記引用した節に凝縮されております。日本の奇跡とも言われる高度成長は名もなき無数の現場で汗をかいて働いた人たちの集合体が見せた、Japan as No.1なのだと。この混沌とした経済社会を逆手に取り、私利私欲、強欲に取り付かれたざる賢い人たちが偉いのではないと。組織の中で要領良く登りつめて会社人とし偉くなった人たちが本当に偉い人なのではないと。学生の皆さんには、暑いのか（地球温暖化）寒いのか（就職氷河期）わからない状況でも、わんぱくでも逞しく泥臭く生きてほしいと切に願っているものであります。

末筆となりますが、この貴重な体験をさせていただいた禅先生をはじめ関係者の方々、横浜国大の学生の皆さんに心から御礼申し上げます。



「OB と語る会」の講師を務めて

唐石 俊之（昭和 53 年電気化学専攻修士卒）

2011 年 7 月 26 日「OB と語る会」の講師を務めました。依頼を受けた時は、ためらいましたが貴重な機会と捉え、お引き受けすることにしました。会社に相談したところ、ぜひチャレンジしてほしいと全面的にバックアップしてくれました。

対象は化学・生命学科系の 3 年生ということでしたが、最近の学生の皆さんが、どのようなことに興味を持っているのかよくわからず、担当の關先生にご相談しました。「3 年生には就職・進学どちらの希望者もいます。まだ真剣に将来のことを考えている人は少ないようなので、会社での体験を通じて刺激を与えてほしいですね。」というものでした。この要望に対して、社会に出て早い時期に多くの方が直面するような問題・悩みを中心に、できるだけ会社の様子が具体的にわかるように話をすることにしました。

当日は 70 名程度の学生さんが出席され、慣れていない講師にもかかわらず、よく話を聞いてもらえました。また懇親会にも多くの方に参加してもらえました。試験週間なので懇親会の出席者は少ないのではと国大化学会の事務局の方も心配されていましたが杞憂に終わり大変嬉しく思いました。懇親会では、多くの質問を受け、皆さんの積極的な態度に感心しました。

学生の皆さんから提出された 67 枚のアンケートのコピーを当日の帰りにいただきました。大変興味深く読みました。関心の高かったものはどれだったのかと思い、キーワードを拾いグラフにしてみました。（グラフ参照）一番多かったものから順に、

- ・「コミュニケーション」：任された仕事も一人ですべて背負うより、上司や仲間とコミュニケーションをしながら一緒に作り上げ、やり遂げる。
- ・「前向きに」：自分を磨いて前向きに楽しく。
- ・「ハウレンソウ（報告・連絡・相談）」：悪い結果ほどハウレンソウ。
- ・「信頼」：信頼されるには約束を守る。
- ・「ワークライフバランス」：仕事と自分の生活・家族との時間等との両立。

でした。私の伝えたかったことが、きちんと伝わっ



ていて大変嬉しかったです。

その他の意見としては、

- ・会社の雰囲気がわかり少し具体的に考えられるようになった。仕事のやりがい・つらさがわかった。
- ・専門以外でも大切なことはある。
- ・働いてゆく指針をもらった。

などありました。先生にいただいた今回の講演の狙いに何とか応えられたのではないかと思います。安心してました。

懇親会の席やアンケートでの質問は次のとおりです。ご質問いただいた皆さんには別途回答します。また次回の講師の方には、このような要望があることもお知らせしたいと思います。

- ・大学時代の研究は？ やってあげよかったと思うことは？
- ・常にプラス思考の秘訣は？
- ・同じ失敗を繰り返さないコツは？
- ・学生時代の研究が仕事に生かせないことがあるのは残念。
- ・英語の克服方法は？
- ・今後どんなことをしたいですか？

今回の講演は、私にとって予想以上に大変貴重な体験となりました。

定年を迎える前に自分の経験を振り返り、学生の皆さんに伝えたいことを整理できたことは、自分自身の将来を考える上でも役立ちました。

また家族にもこの話をしました。娘が 3 人で長女は社会人 3 年目、次女、三女は学生です。このエピソードは面白いとか、ここはどうかかな と言ってくれたり、娘との共通の話題が少ない中、久しぶりに

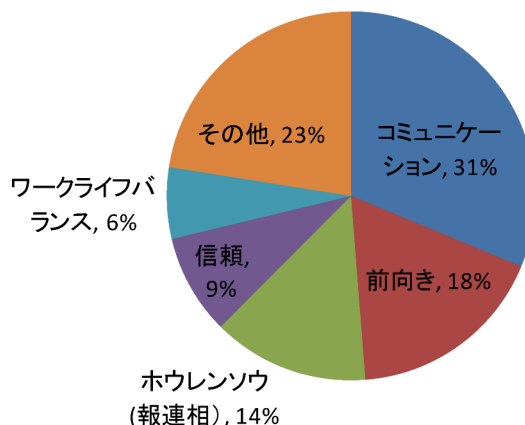
盛上がり大変楽しい時間を過ごせました。父親の仕事の一端を理解してくれたようです。

もう一人の講師のDIC株式会社 山口氏とも話ができ、このような情報交換の機会の重要性を痛感しました。その中で気づいたのですが、在學生はもとより社会人になった後のケアとして、卒業後1～3年、5～8年など いくつかの階層で意見交換できるような機会もあれば良いと思います。社外の人に聞きたい話題もあるかもしれません。

また女性の方にも講師をできればと思います。当日出席された学生さんの2割程度は女性ですし、現在は女性の上司も多くなっています。

おわりに このような機会を与えていただいた国大化学会の関係者の皆様、試験で忙しい時期にもかかわらず参加してくれた学生の皆さん、そして懇親会後もお付き合いいただいた講師の山口氏はじめ関係研究室の方々に感謝いたします。

アンケートのキーワード



私はこの4月から国大化学会の役員をしています。また折を見て皆様と話すことができれば幸いです。

「OB と語る会」の講師を務めて

山口 公弘 (平成17年物工卒, DIC株式会社勤務)

2011年7月26日の「OB と語る会」の講師を務めることになった経緯とその結果について、紙面を借りて報告させていただきます。

この発端は、2月に同期と研究室に顔を出した際に、恩師である関先生から講師をしないかと持ちかけられたことです。その時は、講師をするには未熟と考え、やんわりと辞退いたしました。その後、先生の私邸でお酒を飲みつつ再度依頼され、判断力が鈍っていたこともあり、引き受けることにいたしました。

しかし、講演する内容について考えたところ、語るに値する人生経験が足りないと改めて実感しました。それならばいっそ反面教師としてみてもらえば良い、と思い、自分の仕事上の失敗とその反省について話すことに決めました。

当日、早めに横浜国大について構内を散策しましたが、構内までバスが乗り入れたり、第2食堂が小洒落たカフェ風になっていたり、懐かしい中にも変化を感じました。また、学生に混じって歩いてみたのですが、なんともいえない違和感があり、年月の残酷さを実感しました。

同窓会室に集まってから講義棟の中に向かうと、すでに大勢の学生さんが廊下で待機しており、この



人数の前で話すのか、と緊張感が増してきました。その後教室の中に入り演壇に立つと、プレッシャーは最高潮に達しました。

結局、スライドがあるにもかかわらず、あらかじめ考えていたことの半分も話せませんでした。拙い内容だったにもかかわらず、半分以上の学生の方は、(とりあえず)起きてくれていたようです。また、講演後の懇親会で直接学生さんと話し、講演後の感想分を拝見したところ、気持ちは無事伝わっていたようで、胸をなでおろしました。

今回、講演を通じて学生の皆さんに伝えたかったことは、どんな物事も前向きに、機会と捉え取り組んで欲しい、ということでした。これは、過去の自分の失敗の多くが、自分の業務をやらされ仕事と認

識して無責任に取り組んできた反省からです。

上記の反省は、今回のテーマを考えるに当たり過去を見直して改めて実感したものであり、今回の講演は自分にとっても非常に良い機会であったと思います。

最後になりますが、このような貴重な機会を与えてくださった關先生をはじめ関係者の方々、辛抱強く拙い講演を聞いていただいた学生の皆さんに心から御礼申し上げます。